

# 本校における出欠情報管理システムの構築

—科目担当者用機能の開発—

Construction of attendance information management system in Salesian Polytechnic  
- Development of function for person in charge -

CS27 高橋 裕佳  
指導教員 小出 由起夫

## 1. 緒言

現在の出欠情報は出席簿に記録され、四半期ごとにデータ入力される。そのため学生の出欠席の確認を行うには時間と手間がかかることになる。

そして学生個々の出欠情報は学期末にまとめて確認を行うことが多い。

そのためいくつかの問題点が生じている。教員が一定基準を超えそうな学生を把握しづらい、教員の総出席数の数え間違い、教員が学生の注意を促せない等である。

本研究では上記で述べた問題をとりあげ、打開策の調査と解決するためのシステム開発を行う。

## 2. 研究のアプローチ

本研究では、簡単に出席データの登録、変更を行うことができ、出席データを処理して得られる情報を確認できるように開発を行う。

また、出席情報を管理しやすくするだけでなく、管理する際にもっと必要な機能についても調査・検討を行うものとする。

本研究は共同研究のため、開発はそれぞれ分担して行った。

担当部分は【科目担当者用機能】である。

## 3. 機能

本システムの機能は【認証】・【担任用機能】・【科目担当者用機能】とに分けることができる。

認証とは本システムが教員のみ使うことを前提にしているため、ログイン処理を実装することにした。

また担任と科目担当者では学生の出欠情報の確認をする項目が違うため、2つに分けて処理を行う必要から、担任用機能と科目担当者用機能に分けた。

また成績通知表に記されたデータから、授業日数・出席停止・忌引・要出席日数・病欠日数・事故欠日数・出席日数・遅刻回数・早退回数・欠課時間の10個のデータが必要となる。

科目担当者の行う処理は授業の日・科目名・学年・クラスを指定し、ファイルの検索を行う。ファイル検索で欠課・公欠・忌引・欠課修正を行い、学生が何時間目から何時間目まで授業を欠席したかの情報を入力し、データの更新を行う。

## 4. 結果

今回開発を行った【科目担当者用機能】は、設計した機能を実装することが出来た。

科目担当者用での処理画面を以下の図1に示す。

No.	名前	欠課理由	開始時間	終了時間	欠課数	欠課警告
01	稲葉A	欠課	4	5	9	成績不可
02	稲葉B	欠課	1	8	-2	
03	稲葉C		300	500	497	
04	稲葉D		5	6	8	

図1:科目担当者用起動画面

## 5. 今後の発展

現在の出欠情報の記録方法に比較して、科目担当者は自由にデータを参照できることから出欠情報をいつでも処理することが可能となった。

しかし開発したシステムでは出欠情報をリアルタイムに更新するとなると科目担当者の負担が大きくなると考えられ、改善する必要がある。

## 文献

- [1]赤坂玲音【これからはじめる Visual C++ 2005 入門編】秀和システム(2006)pp1-431
- [2]増田智明【ひとめでわかる Microsoft Visual C++ 2005 アプリケーション開発入門】・日経 BP 出版センター(2006)pp1-320